

保育目標の達成	職員間の連携	地域とのコミュニケーション
<p><b>【目標】</b>                      ○混合保育の利点を活かし、異年齢児の子どもが関わりを持つ中から「思いやり」の心を育てる                      ☆健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を整え、一人ひとりの発達過程に応じて乳幼児期に相応しい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育する                      ●連絡を密に取ることで保護者との信頼関係を築きながら保護者を理解し適切に援助する</p> <p><b>【達成度】</b>                      ○日々の生活の中で2歳児が自発的に年下の子の面倒をみていた。自分が作ったブロックを欲しがると同じものを作って渡してあげたり、0歳児の好きなおもちゃや絵本を取ってあげたり、「いないいないばあ」など喜ぶことを進んでする姿がよく見られた。同じ空間で過ごす中で「思いやり」の心が育まれていた。                      ☆一人ひとりと保育者がゆっくり関わる事を大切に安心できる環境を作るように心掛けた。活動面では、0,1,2歳合同だったり年齢別に行ったりとめりはりをつけた。2歳児だけで戸外に出かけた時には、ルールのある遊びを取り入れたり、より活発に動き回ったりする活動を多く行い発達過程に応じた体験ができるようにした。                      ●送迎時やノートで連絡を密に取ることで、子どもの成長を共に伝え合い一緒に喜ぶことが出来た。家庭での姿がわかることで保育園でも個々に保育内容を配慮をしていくことができたので安心して保育所に預けられてもらうことができた。コロナ禍で家庭が抱える負担や不安も多い一年だったので保護者の気持ちに寄り添いながら個別に話を聞く機会も持ちながら丁寧に対応していった。</p>	<p>今年度は新しい職員が多くいたため、保育園での流れやマニュアルなどを一つずつ丁寧に職員間で確認しあっていった。2週間に一度、30分～1時間程度の職員会議も行い、共通認識をもって子どもや保護者に対応できるように情報の共有を行ったり、次週からの予定を話し合い職員の配置や分担を決め様々な活動が安全に楽しく行えるようにした。担当以外の視点からの意見も共有していくことで保育の幅も広がっていった。</p> <p>多動的な子や消極的で慎重派な子などへの対応を担当の保育者が中心となり、子ども一人ひとりへの対応の仕方を細かく話し合うことで子どもに合わせた対応ができた。早出、延長時などでの対応についても担当から聞き取り、個々の気持ちに寄り添いながらかかわるように職員で意識統一していった。</p> <p>連絡事項簿に家庭からの連絡事項や一人ひとりの健康状態、園での特記すべき情報や降園時に保護者に伝えてもらいたいことなどを記入して保育者間で共有した。担当以外が受けた場合は、記入をしても必ず口頭でも伝えていくことを全員で守り確実に保護者に伝えられるようにしていった。</p> <p>コロナ対策を徹底し、その都度変化していくウイルス対策を職員で確認しあいながら感染症対策を丁寧にやっていった。</p>	<p>戸外活動で転園した児童のいる保育園と一緒にいるとお互いに声を掛け合い、在園時の様子を伝えたり、その後の成長や様子を聞いたり児童を通じて交流を図ることができた。</p> <p>以前、消防署見学で消防車や救急車に乗せてもらったり、防火服を着させてもらうなどの体験をさせてもらっていたので、コロナ禍で今年度は実施できなかったが散歩で消防署の前を通る時には挨拶をしたり声をかけてもらったりと交流が続いている。</p> <p>ニワトリを放し飼いにしている場所があり散歩で立ち寄らせてもらうことが多くあった。ニワトリが鶏舎に入っているときに子どもたちが行くと管理人さんが気づいてニワトリを放してくれるなど気にかけてもらっている。</p> <p>コロナの影響で中止となったが、連携園であるつきみの幼稚園から園バスでお迎えに行くので2歳児の子を連れて遊びに来てくださいとお誘いがあった。今後も交流を大切にしていきたい</p> <p>コロナ禍ということで地域とのコミュニケーションをとることはむずかしかったが、今後もこの状況は続いて行くので、そのなかでも地域とのつながりが持てるような方法を考えていく。</p>

この評価のつけ方：

職員会議を開き各職員への聞き取り